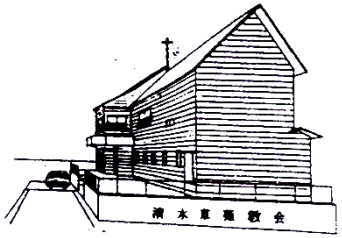
≪今朝の聖書から≫

聖書箇所は、文字通りイースターの朝、すなわち今に至るキリスト教会が“主の日”としている、週の第一日の記録です。一昨年だったと思いますが、週報に“主の十字架上での七つの言葉”を紹介したと思います。今年は、“十字架上の七言”をもう一度、聖書から頂くことのみをお勧めするのに止めておきたいと思います。それらのすべてのことがあった後、復活の朝を迎えることになります。“三日目に死人の内よりよみがえり・・・”と、毎週私たちが“使徒信条”において告白している、あの出来事です。空っぽの墓はイエス様の復活を示しています。緊張感などから来る夢のようなものではなかったのです。この復活が、ごく最初のキリスト教会から、疑いえない事実として認められていたことに注意しましょう。“ごく初めのころの教会”すなわち、イエス様の遺体がどうなったか、問題にできるころから、反対する人々は、主の遺体を指し示すことはできなかったのです。今に至るまで、ほとんど出尽くしたと言える立場からの反論を打ち破って、イエス様の、復活は認められています。宗教改革期には、いくつかの信仰問答書が作られましたが、1563 年に刊行されたハイデルベルク信仰問答書は次のように言っています。“キリストの復活は、われわれにどのような益を、もたらすのですか（問４５）”という、確認すべきことが記されています。“死に勝ち、ご自分の死によって、我々のために、得てくださった義に、あずからせて下さるのであります。第二に・・・”というのがその解答です。われわれもまた、そのために新しい命に呼び覚まされること、すなわち、利益というのは、私たちのために、なくてはならない、救いそのものが、この方を信じることによって、もたらされたことが宣言されるのです。今も空虚な墓のようなところで、“私たちの絶えることのない悩み”に解決はないものかと、探し回っていることはないでしょうか。こちら側の問題として探し回っているのかもしれません。生も死も、救いも滅びも、死ぬまでの問題だとしたら、実に命そのものが輝きを失うことでしょう。今も、マリヤが主によって目が開け、その名を呼びかけられたように、今朝、一人一人がその名を主に呼ばれているのではないでしょうか。もう一つのことからも判ります。“去年も一昨年も教会はイースターを記念したということ”です。変ったでしょうか。名を呼ばれて返事をする機会はいっぱいあります。回数が多いから価値がなくなることは絶対ありません。

週　報

２００８年　３月　２３日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝１６：３１

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp
牧師　村上定幸